
東京都微生物検査情報

MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

第41巻 第8号
2020年 8月号
月 報



東京都健康安全研究センター

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

ISSN 1883-2636

2019年の全国及び東京都における食中毒発生状況

2019年に全国及び東京都内で発生した食中毒事件の概要と特徴について、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課並びに東京都福祉保健局健康安全部の資料に基づいて紹介する。

1. 全国における食中毒発生状況

食中毒事件数は1,061件、患者数は13,018名(死亡者4名)であり(表)、2018年の事件数1,330件、患者数17,282人と比べ、前年比事件数0.80、患者数0.75でどちらも減少した。そのうち病因物質不明は17件(1.6%)、患者数276名(2.1%)であった。

細菌性食中毒の事件数は385件(36.3%)であり、前年比0.82で減少した。病因物質別にみると、第1位は2003年以降連続してカンピロバクター286件(27.0%)であり、以下、黄色ブドウ球菌23件(2.2%)、ウエルシュ菌22件(2.1%)、サルモネラ21件(2.0%)、腸管出血性大腸菌20件(1.9%)、その他の病原大腸菌7件(0.7%)、セレウス菌6件(0.6%)の順であった。2018年に集団発生が報告された腸炎ビブリオ、赤痢菌を原因とする食中毒の発生はなかった。また、腸炎ビブリオによる食中毒が厚生労働省の食中毒統計に掲載されるようになった1962年(63年までは病原性好塩菌として掲載され、64年から腸炎ビブリオとされる)以降、はじめて国内報告例がなかった。

細菌性食中毒の患者数は4,739名(36.4%)で、前年比0.71で減少した。病因物質別では、ウエルシュ菌1,166名(9.0%)、カンピロバクター1,937名(14.9%)、サルモネラ476名(3.7%)、その他の病原大腸菌373名(2.9%)の順であった。

1事件あたり患者数500名以上の食中毒は報告されなかったが(昨年1件)、静岡県で自家製ローストビーフを原因とするウエルシュ菌の食中毒が発生し、437名の患者が報告された。

ウイルス性食中毒では、ノロウイルスによる食中毒事件数は212件(20.0%)で、患者数が6,889名(52.9%)であった。2019年の食中毒患者数では最多であったものの、前年比で事件数0.83、患者数0.81と減少した。1事件あたり患者数500名以上の食中毒は報告されなかったが(昨年1件)、兵庫県で昼食弁当を原因として483名の患者が報告された。

寄生虫性食中毒では、2013年より食中毒病因物質の種別に追加されたアニサキスによる食中毒事件数

が328件(30.9%)、患者数336名(2.6%)で前年より減少したものの、食中毒全体の第1位(前年比0.70)であった。2018年4月及び5月に全国的に散発事例が報告されたカツオを原因とするアニサキス食中毒は大幅に減少した。また、クドアによる食中毒は17件(1.6%)であった。

化学物質による食中毒は9件(0.8%)、植物性自然毒は53件(5.0%)、動物性自然毒は28件(2.6%)であった。

食中毒による死亡者は4名で、その原因内訳は自然毒3名、ノロウイルス1名であった。原因食品は植物性自然毒のイヌサフラン2名と、動物性自然毒のフグ1名によるものであったが、ノロウイルスの原因食品は不明であった。

2. 東京都における食中毒発生状況

都内の食中毒事件数は119件、患者数は865名で、死亡例は報告されなかった(表)。2018年の事件数185件、患者数1,917名と比べ、前年比事件数0.64、患者数0.45で、全国と同様、どちらも減少した。

細菌性食中毒の事件数は48件(40.3%)で、病因物質別ではカンピロバクターが36件(30.3%)と最多で、次いで腸管出血性大腸菌5件(4.2%)、ウエルシュ菌3件(2.5%)、サルモネラ2件(1.7%)、黄色ブドウ球菌とセレウス菌が各1件(0.8%)であった。

細菌性食中毒の患者数は449名(51.9%)が報告され、前年比0.60で減少した。病因物質別患者数では、ウエルシュ菌196名(22.7%)、カンピロバクター187名(21.6%)、腸管出血性大腸菌24名(2.8%)、セレウス菌20名(2.3%)、サルモネラ18名(2.1%)、黄色ブドウ球菌4名(0.5%)の順であった。1事件あたり患者数100名以上の食中毒は報告されなかったが(昨年1件)、教育訓練施設の寮で提供された仕出し弁当によるウエルシュ菌を原因とした食中毒が発生し、患者93名が報告された。

ウイルス性食中毒では、ノロウイルスによる食中毒事件数が14件(11.8%)で前年の半数となり、患者数266名(30.8%)も食中毒患者数では最多であったが、前年比0.29で大幅に減少した。1事件あたり患者数100名以上の食中毒はなかった(昨年3件)。

寄生虫性食中毒では、アニサキスによる食中毒事件数が51件(42.9%)、患者数53名(6.1%)で、事

件数では全国と同様最多発生件数であった。

病因物質不明の食中毒は3件(2.5%)、患者数81名(9.4%)であり、すべて飲食店で提供された食事が原因であった。うち1件は、学生寮内の飲食店が提供した食事により患者59名が下痢を呈した事件で、患者からプロビデンシア・アルカリファシエン

ス(PA菌)が検出された。なお、現段階においてPA菌の病原性については十分に解明されていない。

(食品微生物研究科 前田雅子)

表. 2019年の食中毒発生状況(全国、東京都)

病因物質	全国			東京都			
	事件数(%)	患者数(%)	死者数	事件数(%)	患者数(%)	死者数	
細菌	サルモネラ	21 (2.0)	476 (3.7)	—	2 (1.7)	18 (2.1)	—
	黄色ブドウ球菌	23 (2.2)	393 (3.0)	—	1 (0.8)	4 (0.5)	—
	ポツリヌス菌	—	—	—	—	—	—
	腸炎ビブリオ	—	—	—	—	—	—
	腸管出血性大腸菌	20 (1.9)	165 (1.3)	—	5 (4.2)	24 (2.8)	—
	その他の病原大腸菌	7 (0.7)	373 (2.9)	—	—	—	—
	ウエルシュ菌	22 (2.1)	1,166 (9.0)	—	3 (2.5)	196 (22.7)	—
	セレウス菌	6 (0.6)	229 (1.8)	—	1 (0.8)	20 (2.3)	—
	エルシニア・エンテロコリチカ	—	—	—	—	—	—
	カンピロバクター	286 (27.0)	1,937 (14.9)	—	36 (30.3)	187 (21.6)	—
	赤痢菌	—	—	—	—	—	—
	総数	385 (36.3)	4,739 (36.4)	—	48 (40.3)	449 (51.9)	—
ウイルス	ノロウイルス	212 (20.0)	6,889 (52.9)	1	14 (11.8)	266 (30.8)	—
	その他のウイルス	6 (0.6)	142 (1.1)	—	—	—	—
	総数	218 (20.6)	7,031 (54.0)	1	14 (11.8)	266 (30.8)	—
寄生虫	アニサキス (シュードテラノーバを含む)	328 (30.9)	336 (2.6)	—	51 (42.9)	53 (6.1)	—
	クダア・セブテンブクタータ	17 (1.6)	188 (1.4)	—	—	—	—
	サルコシスティス	—	—	—	—	—	—
	その他の寄生虫	2 (0.2)	10 (0.1)	—	—	—	—
	総数	347 (32.7)	534 (4.1)	—	51 (42.9)	53 (6.1)	—
化学物質	化学物質	9 (0.8)	229 (1.8)	—	1 (0.8)	7 (0.8)	—
自然毒	植物性自然毒	53 (5.0)	134 (1.0)	2	—	—	—
	動物性自然毒	28 (2.6)	38 (0.3)	1	—	—	—
	総数	81 (7.6)	172 (1.3)	3	0 (0.0)	0 (0.0)	—
その他	*1	4 (0.4)	37 (0.3)	—	2 (1.7)	9 (1.0)	—
原因物質不明		17 (1.6)	276 (2.1)	—	3 (2.5)	81 (9.4)	—
総数		1,061 (100.0)	13,018 (100.0)	4	119 (100.0)	865 (100.0)	—

*1 その他(4件)は、カンピロバクター及びサルモネラ(東京、他県)2件、カンピロバクター及びO103(東京)、ノロウイルス及びサポウイルス(他県)との混合感染

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)※

2020年8月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	腸管出血性大腸菌	結核菌
区	千代田区						
	中央区						
	港区					2	
	新宿区						
	文京区						
	台東区						
	墨田区					1	
	江東区						
	品川区					3	
	目黒区					2	
	大田区					1	1
	世田谷区					3	
	渋谷区						
	中野区					4	4
	杉並区					8	
	豊島区					1	
	北区						
	荒川区						
	板橋区					2	1
	練馬区					1	
足立区					10		
葛飾区							
江戸川区					2		
市	町田市			1		1	
	八王子市						
小計				1		41	6
都	西多摩						
	多摩立川						
	南多摩						
	多摩府中					3	
	多摩小平					3	
	島しょ						
小計						6	
合計				1		47	6
健康安全研究センター 検出分				3		4	

※2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)*

2020年8月分

	検体数	2020年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)		22
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)	1	2
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	2	42
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	6	28
播種性クリプトコックス症(菌)	2	8
合計	11	102

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2020年8月分

	菌種名	検体数	2020年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		2
	組織侵入性		
	腸管出血性		6
	その他・不明		
	サルモネラ		
	O4		5
	O7	1	2
	O8		1
	O9		
	その他		
	腸炎ビブリオ		
	プレジオモナス・シゲロイデス		1
	カンピロバクター	6	44
	黄色ブドウ球菌	6	12
A型ウエルシュ菌		71	
ボツリヌス菌		1	
ウイルス	ノロウイルス(G I)		38
	ノロウイルス(G II)		326
	ノロウイルス(G I,G II)		4
	ロタウイルス		
	サポウイルス		
寄生虫	アニサキス	3	29
	クドア		
合計		16	542

表4 HIV 検査数及び陽性数

2020年8月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	711	9	241	0	0	0	952	9
保健所等	9	1	6	0	0	0	15	1
合計	720	10	247	0	0	0	967	10
2020年累計	5,791	74	2,068	0	1	0	7,860	74

表5 性感染症検査数及び陽性数

2020年8月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	950	93	0	0	0	0
保健所等	36	1	29	2	16	0
合計	986	94	29	2	16	0
2020年累計	7,764	608	1,321	79	982	4

定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

過去3ヶ月間にセンターに搬入された定点把握疾患検体から、ウイルスは分離されませんでした。

◆東京都微生物検査情報◆

2020年 11月 24日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>